

氏名	益田 理 広
学位の種類	博 士 (理 学)
学位記番号	博 甲 第 7750 号
学位授与年月日	平成 28年 3月 25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	Neo-Confucian Explanation of Geography (朱子学による地理学基礎論の規定)

主査	筑波大学教授	博士 (理学)	松井 圭介
副査	筑波大学教授	理学博士	山下 清海
副査	筑波大学教授	理学博士	村山 祐司
副査	筑波大学講師	博士 (理学)	森本 健弘

論 文 の 要 旨

本研究は地理学における基礎理論の確立を企図したものであり、地理学の根本概念である空間概念に内在する問題を朱子学の論理を用いて検討し、その学問としての本質を厳密に定義した方法論上の成果である。Ⅱ章において、地理学の基礎理論に潜在する根本問題の提起がなされた。ここでは「計量革命」の端緒となったシェーファーとハーツホーンの論争に着目し、両者の明らかな対立の中に一貫して同様の空間概念が存在することを指摘した。さらに、その概念的な性質を分析し、それがアリストテレス的な、実体を圍繞してその統一を主張するものであることを明らかにした。ただし、それは純粋なアリストテレス説ではなく、物質それ自体の輪郭たる「形相」と区別がなされず、異質な現象群を内包するために、その実体としての性質の一定しない特殊なものであった。そしてこの概念としての性質の不定こそが、地理学の根本問題であると指摘された。

次いでⅢ章では、その問題を解決するために朱子学的な空間概念の導入がなされた。朱子学における空間概念は西洋哲学にはない重層的な定義をそなえており、形而下世界の成立条件である絶対的単一の否定から、必然的に「天文」「地理」という無限の時空間と有限の空間の存在を導出するものである。そこでは、陰陽の凝集発散とその機序に対する認識の構成する形而下世界の実体を前提として、認識の完全に及ぶ「地理」という空間と、その埒外を指す「天文」という時空間の二概念の存在が認められる。これらは、形而下世界の最小要素と謂うべき存在であり、内部に存在する諸現象とは不即不離ながら区別される。その点では近代以降の地理学の論ずる空間概念と類似するが、輪郭的性質を一切含まない点では全く異なる。そして、この概念こそが、地理学の定義に有効であるとした。

以上の議論をうけ、Ⅳ章では地理学の学問としての定義を行った。ここでは前章で示された「地理」概念を導入することによって、諸現象を内包しつつも、輪郭による統一という混乱を介在しない、地理学の扱う現象の総体を極めて適切に説明する概念を規定することが可能となるとした。そして本研究は、この朱子学的な空間概念を対象とすることによって、地理学の再定義を行った。約言すれば、「形而下世界の成立要件た

る根源的差異より生じる発散凝集の産物たる時空間の内、認識的原理の作用たる論理秩序付与の及ぶ有限の範囲を対象とし、その実態およびそこに表出する普遍的秩序の記述を目的とする学問」という地理学の再定義が本研究より導出された。これによって、地理学的空間論における方法論上の基礎が提出された。

審 査 の 要 旨

益田氏の研究は、西洋において発展した地理学の根本概念たる空間概念に内在する問題を東洋思想上の精髓である朱子学の論理を用いて解決し、その学問としての本質を厳密に定義した地理学本質論に関わる研究であり、この方面における画期的な研究成果である。当該研究の構成は大きく二つに分かれる。前半部においては従来の地理学的空間概念に内在する問題を摘出し、後半部においてはその問題を朱子学の応用によって解決したものである。朱子学を採用した理由は、前半部において確認された問題が、西洋思想の背後に存在する空間のアリストテレス的定義に由来するために行われたものであった。それゆえ、同氏の研究成果は、西洋世界に存在する空間概念に関わる特異な前提を排した点で従前の議論とは一線を画し、東洋思想を援用した新たな地理学方法論の基礎を構築した点において高く評価される。

本研究における最大の意義は地理学における空間論の再定義に見出すことができる。従来の地理学における空間論をめぐる議論が空間概念の混乱を増幅し、そうした地理学的空間論をめぐる混乱が地理学の基礎的定義をあいまいにしてきた。この学問存立の根幹に関わる困難を解決し、一つの統一された学問領域としての定義を構築した試みは評価される。それは、ギリシャ哲学とキリスト教を基礎とし、その思想の根幹においては、現代もなおそれらの前提を（例えば空間概念がアリストテレス的であり、あるいはまた環境決定論と可能論がキリスト教的な運命論と自由意志の対立と相同であるように）墨守し続ける欧米の学問の到達し得ない結果であったと言える。その是非は今後の地理学界の議論に委ねるにしても、本研究が従来の西洋世界を中心として発達した地理学理論とは別個の、極めて独自の結果をもたらしたということは確実であろう。こうした意義により、本研究が地理学理論に対して重要な示唆と刺激を与えることが期待される。益田氏の研究は、古今東西の空間論にかかわる研究成果を渉猟しつつ、朱子学の原典資料講読に基づく厳密な理論展開を行った地理学的空間論の成果であり、研究のオリジナリティおよび斯学に与えるインパクトは高く評価される。

平成28年2月4日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもとに論文の審査及び最終試験を行い、本論文について著者に説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものとして認める。